

調査理由: 学術研究
調査地: 伊達市向有珠町 203-1
調査主体: 伊達市教育委員会
調査期間: 平成 24 年 10 月 22 日～10 月 27 日
調査面積: 90 m²

調査の概要

有珠地区所在のカムイタプコプ下遺跡は、平成 22 年度に添田雄二氏（北海道開拓記念館学芸員）が実施した地質学調査の際に発見された遺跡です。

昨年度から、近世アイヌ文化期の人々の暮らしと自然環境の変化との関係を明らかにするため、北海道開拓記念館と伊達市噴火湾文化研究所による合同学術調査がはじまりました。なお、本研究は科学研究費助成事業「北海道における小氷期最寒冷期の実態とアイヌ民族との関係」（研究代表者：添田雄二）により実施しています。

昨年度の調査では、チセ（アイヌ民族の住居）に伴う大小 2 基一対の炉が検出されました。炉から検出された試料の ¹⁴C 年代を測定したところ、15 世紀後半である確率が最も高いという結果が得られました。

今年度は、チセ跡の範囲を把握するための発掘調査を行ないました。検出された主な遺構は以下の通りです。

(1) チセ跡

本年度は、カムイが出入りする窓（「神窓」）があったと考えられる住居の奥壁の一部及び長軸壁に対応すると考えられる柱穴を検出することができました。柱穴はサイズや形態



灰集中



チセ跡の柱穴列

にややバラツキがあるものの 1～2 m 間隔で直線状に並びます。次年度は、入口側の物置部分（セム）の有無を含めた全体像の把握を目的とした調査を予定しています。

(2) 灰集中

灰集中は、チセ跡の神窓側の柱穴を検出するためのトレンチにおいて、駒ヶ岳噴火津波堆積物の直下から検出されました。灰層には焼土層がなく、また山状で

あることから、別地点から持ち込まれたものと考えられます。また、灰集中の直上には小規模な貝塚がありましたが、貝殻の隙間に下層の灰が入り込んでいることから、灰と貝塚の時間差はほとんどないものと思われます。

検出面はチセ跡とほぼ同じですが、チセ跡の範囲内であるにもかかわらず灰が散乱せずにまとまっていることから、灰と貝塚はチセの廃棄後に形成されたと考えられます。次年度は、範囲や性格の解明を目的とした調査を予定しています。

この遺跡についてのお問い合わせは **伊達市噴火湾文化研究所** まで
電 話：0142-21-5050

伊達市の遺跡をもっと知りたい方は **史跡北黄金貝塚公園** まで
所 在 地：伊達市北黄金町 75 電 話：0142-24-2122
開館時間：9:00～17:00（4月1日～11月30日まで期間内無休）
<http://www.funkawan.net/kitakoga/ktkgn.html>